

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370900573		
法人名	社会福祉法人 柏寿会		
事業所名	福光園グループホームフクちゃんハウス		
所在地	岩手県一関市真柴字岩ノ沢91番地19		
自己評価作成日	平成24年10月24日	評価結果市町村受理日	平成25年1月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaizokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kihon:true&amp;JizyosyoCd=0370900573-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022">http://www.kaizokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kihon:true&amp;JizyosyoCd=0370900573-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(公財)いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成24年11月13日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人一人が安心して、その人らしい生活を送って頂けるよう、個々の情報を共有し支援している。表情、行動等から思いを共感し、個別支援の取り組みへと繋げている。  
各委員会を設け、職員の意欲向上に向け取り組んでいる。  
家族、地域の方々に行事への参加を働きかけ、つながりが深まり互いの理解を得られている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

年2回の家族アンケートにより、ご家族の希望や意見を把握し、反映したホームの運営が行われている。また、ケアプランの作成や、見直し時期には家族の参加により、話し合いが持たれている。同じく年2回職員の自己評価により、職員自身が日常の介護サービスの見直しや確認を行うよい機会となっていた。訪問時は利用者の皆さん・職員の方々も緊張されていた様子で、笑顔が見られない様子もあったが、出勤してきた職員が一人ひとりの利用者の皆さんに、挨拶の声掛けをした途端に、利用者の方々生き生きとした明るい笑顔が広がった。また、それをきっかけに利用者や職員の緊張も解けた様子があり、普段のホームの穏やかな様子が戻った感じが見られた。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員個々に意見を出し合い、それを反映し事業所理念を作成している。又、事業所理念を掲示し、意識付け・共有を計らい実践に繋げている。	法人の理念をもとに、地域密着型を念頭に職員で話し合い、ホーム独自の理念を作成している。また、その理念の4項目全てに、理念の示唆する内容が詳細に示されている事で、よりわかりやすく実践に繋がるよう取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の民区運動会への参加、ボランティア(月1回、郷土料理を作って頂き交流)の受け入れ、運営推進会議の実施。	地元のボランティアの協力を得ながら地域の運動会に参加後もちつきをし、もち料理を楽しんだ。理・美容院は、それぞれ以前から利用していた店の利用が継続している。また、利用者の希望により外食やドライブに出かけている。合唱団の訪問を受けるなど、地域との交流が続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者個々の機能を活かし、雑巾を作成し、地域の小学校へ雑巾寄贈を行っている。(今年度100枚寄贈) ※新聞、テレビ取材あり。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を実施し、地域住民、家族、行政の参加の下、実績報告・意見交換・助言等を行い、サービス向上へ活かしている。	複数の利用者のご家族・ホームの職員・地域代表・介護保険課職員の参加により、活動報告や事故の分析・地区の行事の予定・行政やホームに対してご家族からの質疑など幅広く話し合いが持たれている。また、消防署や警察署の職員の参加もあり、防犯や防災の助言もいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議へ参加していただき、そこで得た意見を下に情報の共有・協力を築いている。又、行政発信の集まりにも参加し情報共有に努めている。	運営推進会議の中で、家族より行政に対し、介護保険制度などに対する質疑応答が行われている。一関地区(一関市、平泉町)広域行政組合、介護保険組合と連携を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束チェック表の実施。又、毎月委員会を開き、確認を行い、職員個々が理解し防止に取り組んでいる。又、書面も準備している。(万が一に備えて)	身体拘束チェック表により、職員の理解を深め、身体拘束防止に取り組んでいる。夜間は転倒予防にセンサーマットなど福祉用具の活用により、転倒事故が少なくなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会等への参加、又、毎月の職員会議での話し合いを行い、職員一人一人が防止に取り組んでいる。資料を配付し、職員個々が確認している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 福光園グループホームフクちゃんハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議での資料の提示、又、研修会等への参加にて理解を求めている。※現在当ホームでは権利擁護を利用している方はなし。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の家族への説明、又、改定・解約等については、書面送付の元、事前に家族へ説明し、理解・同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談箱の設置。又、運営推進会議での意見交換、家族アンケートの実施にて、結果を受け止めケアに反映させている。アンケートの内容は運営推進会議の場で、公表している。参加出来ない家族様においては郵送している。	年2回家族アンケートを実施している。10項目構成で、項目ごとに率直な意見を言いやすいように、また選択式で書きやすいように、配慮されたアンケートとなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議、年2回の法人全体会議、又、年2回の自己評価(個人面談)の実施にて意見・提案の聞き取りの実施。その中で、職員個々の思いや、視点のあり方等聞かれている。	夜勤の勤務時間や夜勤体制の希望など、職員の意見により変更するなど柔軟に対応している。また、職員の提案により利用者の身体機能の状態に応じて、ホール内の改修が行われた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価・上司評価の実施により、個別面談を行っている。又、そこからの意見を反映し、少しでも負担の軽減に努め、意欲向上に繋げる取り組みを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内・外の研修に参加し、職員会議・復命書にて情報の共有に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会への参加、又、ブロックの定例会への参加により交流の場を作っている。法人内のグループホームとの合同研修会の開催。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、家族同席の下にて本人への聞き取りの調査を行っている。又、本人・家族が抱えている不安材料を聞き出し、職員間での入所判定会議で意見交換し不安の軽減に繋がる様な計らいを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族との話し合いを行い、不安等の思いを理解し、サービスへ反映させ提供している。状況に応じ、家族様へ情報提供し想いの共有に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に訪問調査を行い、フェイスシートを作成し、入所判定会議を行い、情報を共有しニーズを見極めケアの方針を考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者個々の出来る機能を活かし、又、会話を通しコミュニケーションを図っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族参加型の行事を多く持ち、絆・繋がりを育む取り組みを行っている。又、毎月手紙・お便りにて入居者の情報を家族へ提示している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	故郷訪問、ドライブ、外出、外泊を通し、人・場所への繋がりが途切れないような働き掛けを行っている。又、面会等、気兼ねなく出来るよう、配慮している。	昔からの友人を訪ねて、隣接しているデイサービスの利用者がホームに立ち寄りられることもある。また、自宅に外泊したり、日中2～3時間程帰宅する利用者も複数いる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入ったり、自然と関わりが持てるような計らい(席順等)を行い、支えあえるような支援を取り組んでいる。そこから、利用者の気づきが生まれている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の家族にも、親睦会の参加、又、慰問の要請を行い、現在も交流を行っている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族、本人の意向、希望等、職員会議での情報の開示、又、日々の生活の中から入居者の思いを引き出し、それを職員間で共有し、ケアに繋げている。	入浴など個別ケアの場で、利用者本人のストレートな希望や意向を知り得ることも多く大切にしている。また、利用者の表情を見て、必要と感じた時には廊下のソファーを利用し、ゆっくり話を伺うようにしている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報提供、フェイスシートから生活歴を把握し情報の共有に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、バイタル、食事・水分摂取量、排泄等、又、日々の中での入居者の表情、行動等の状態から把握に努め、職員間で情報の共有に努めケアにあたっている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議、ケアプラン評価の実施。又、家族、本人の同席の元、6カ月毎のケアカンファレンスを行い、家族との情報の共有、希望や意見を反映し、ケアプランの作成に努めている。	毎月の職員会議では、(職員個々の)担当利用者お1人ずつのケアプランの評価を行っている。また、ケアプランの更新時期にはご本人・ご家族の参加で話し合いが持たれている。ケアカンファレンスや見直し等は6ヶ月ごとを基本としている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員会議、日々のケース記録から情報の共有を図り、又、ケアプラン評価から後のケアプラン作成・見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員会議、日々の職員間での情報共有に努め、様々な視点からのケアに努めている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 福光園グループホームフクちゃんハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回の地域ボランティアの郷土料理の振る舞い、地域住民のボランティアによる畑の手伝いにより、交流の場が出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族からの意向により、入居者個々に入所前からのかかりつけ医へ受診している。状況に応じ、職員から医師へ情報を提供している。	夜間は、(必要に応じて)協力病院を受診しているが、平日は利用者個々のかかりつけ医を受診している。また、通院は、原則、家族対応となっているが、家族の都合や、身体状況により通院の負担が大きい場合は、ホームの職員で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームであり、看護師の常勤はない。施設併設であるため、入居者の状態に応じて施設の看護師へ相談・判断を促す場合もある。又、かかりつけ医へ連絡し、相談・判断、受診を促す場合もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、家族の協力も仰ぎ、病院との連携を図っている。又、そうした場合に備え、日頃から病院側との情報の共有・相談等を用いて繋がりを図っている。又、職員も自ら入院先を訪れ、本人の現状を確認させて頂き、安心感を与えており、今後のケアの取り組みに活かしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族へ説明を行い、事前に併設の特別養護老人ホームの申し込みも行っていただき、重度化に伴った施設の転居も視野に入れている。家族アンケート、運営推進会議の場で、家族の意向を踏まえながら施設としての現状を伝え、理解して頂いている。	ターミナル等については、入居時に、法人内の特別養護老人ホームの入所申請が行われ、重度化に伴い、施設への転居等も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習の参加。又、マニュアルの作成、定期的な訓練を行い、意識を高めている。(避難訓練、煙体験、消化器体験等)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練の実施。マニュアルの作成、非常食・発電機の設置。又、併設の施設、地域との協力の要請を確保している。	ホームでは日中の避難訓練や夜間の避難訓練が行われている。また、法人内でも地域の災害協力隊8名の参加や消防の立会で総合避難訓練や職員の夜間招集訓練が行われている。同法人の隣接する特別養護老人ホームでは地域の避難所の指定もあり、非常食等物品を預かり保管している。	

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	禁句マニュアルの作成。研修会等の参加にて、情報を共有している。	研修会に参加した職員は、研修内容を職員会議の場で報告して、職員間で研修内容の共有が行われている。訪問時も穏やかな声掛けが行われていた。「フクちゃんハウス禁句集」を作っており、それに準じて適切な対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中から、本人の希望・嗜好・思いを引き出すよう働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活であるが、一人一人の長所を活かし、その方のペースで生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容に出掛けている。以前より行きつけの理容店がある方は、そのまま継続している。希望により髪染めもして頂いている。又、その日の天候に応じて衣類調整の支援。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の潜在能力を活かし、手伝い等の声かけを行い、実施していただいている。又、個々の食形態、嗜好に合わせ提供している。	ミキサー食や、利用者の嗜好によりメニューの変更が行われている。手伝いは主に盛り付けを手伝って頂いている。また、利用者の不穏時に台所に立って貰うことで、気分転換、気持ちの落ち着きが図れる様子も見られている。	これからも長く自分の口から食べ続けられるよう、嚥下マッサージや嚥下体操などを取り入れた援助や、軽体操の習慣化を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事・水分摂取量のチェック。又、定期的に管理栄養士へ献立、カロリー表を提示し、助言・指導を頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けにて口腔ケアの実施。又、夜間入れ歯洗浄の実施。定期的な、歯ブラシ・コップの除菌。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 福光園グループホームフクちゃんハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に、個々の排泄間隔・パターンを把握し、排泄の声掛けを行っている。又、体動から確認し、訴えを引き出している。	排泄チェック表の活用により、パットを汚すことが少なくなる等、改善がみられている。また、ポータブルトイレの使用を見直し、トイレで排泄出来ることを大切にされた援助が行われていた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食品の選出、水分補給、牛乳、オリゴ糖を使用し自然排便を促すような働き掛けを行っている。又、医師の指示の下、排便困難な際は下剤の服薬にて、排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人個人のペースにて入浴できるよう、時間等の配慮を行っている。又、同姓介助の希望や、入浴の希望も受け入れ、それに伴って対応している。(夜間入浴は行っていない。)	利用者や家族の希望により同性介助が行われている。夜間(入浴希望)や、毎日の入浴希望は特に聞かれてはいない。利用者が心からリラックスすることが出来、心の声も聞かれる大切な機会と捉えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的な、居室の掃除。又、リネン交換の実施。無理強いせず、本人の希望に沿ってお昼寝の時間を設けている。居室の温度、湿度管理も行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬している薬を一覧にし、常に職員が確認できるようファイルにしている。又、医師の指示の下で変更がある場合は、通院状況の申し送りを行ない、その都度改正している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る機能を活かし、個々に合った軽作業等の実施。又、歌、踊りの慰問、ビデオ鑑賞、ドライブ等の気分転換に繋がるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じていただけるよう定期的な行事の実施。又、家族・地域住民も参加型の行事も定期的な設け、交流を楽しんでいただいている。	天気の良い日は、職員の声掛けにより、散歩に出かけている。誕生日には事前に、家族の予定を確認し、利用者本人の希望も聞き、個別に食事やドライブに出かけている。また、家族の参加による納涼会や花見・母の日・父の日・七夕・幼稚園からの慰問など定期的に行事が実施され外出や楽しみごとがある。	



岩手県 認知症対応型共同生活介護 福光園グループホームフクちゃんハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来ない方は、ホーム側で管理している。又、定期的に家族へ帳簿の確認の実施。そして、毎月請求書と一緒に帳簿の写しを郵送し確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者から希望がある場合は、それに沿って対応している。又、家族からの電話や手紙も、規制せずに本人へ繋ぐようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険物の排除を行ない、移動しやすいようにしている。植物、花等を配置し季節感を取り入れている。又、ホーム内の温度管理も行っており、入居者の負担にならないよう、過ごしやすい配慮を行っている。	天井が高く、廊下も広く、車イス2台が安心してすれちがうことができる程の、開放的な空間が作られている。また、ホールもガラスの戸により廊下からもよく見渡せる作りとなっている。“りんどう”が、季節を感じさせていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下等にソファを設置し、個々に過ごしやすいよう計らっている。気のあった方との交流が持てるよう食堂のテーブル席の配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔馴染みの物の持込や、家族との写真などを飾り、本人主体となって生活空間を作っている。入居前に家族様に間取りを確認して頂いたり、馴染みの物品の持ち込みも自由である旨説明している。	各部屋に、利用者の家族が差し入れて下さった花が飾られていた。自分自身で水やりをしている利用者もいる。また、個々に家族写真も飾られていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スロープ、手すり、バリアフリーにて過ごしやすい工夫が出来ている。車椅子、歩行器、シルバーカー使用者の安全の配慮の為、危険物を置かないよう注意している。又、夜間は常備灯、蛍光灯にて安全も考慮している。		